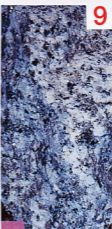
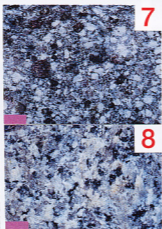
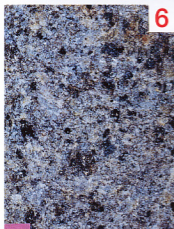
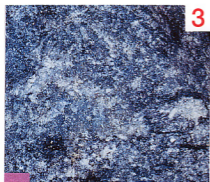


## ラクラン褶曲帯：花崗岩類

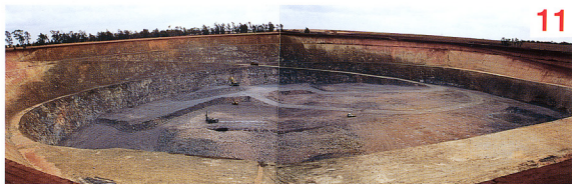


露頭風景2点：ラクラン褶曲帯は古生代の褶曲作用以後、大きな変動を受けておらず、地形はなだらかで岩石の露出状態は日本よりはるかに悪い、サンプルを入手するには路傍の Cutting (口絵1) や草原の丸石を発破するのが一般的であるが、海岸部には露岩が見られることがある (口絵2、テュロス・ヘッド)、そこはマグマ混合の舞台と考えられている (表紙説明参照)。



花崗岩類8点。3：クーマ変成岩、堇青石黒雲母片麻岩、このように新鮮なものは珍しい、4：クーマ花崗岩、堇青石黒雲母花崗閃緑岩 (S、チタン鉄鉱系)、5：コウラ堇青石黒雲母花崗閃緑岩 (S、チタン鉄鉱系) に見られる堆積岩源レスタイト、6：ストラソギー-堇青石黒雲母花崗岩 (S、チタン鉄鉱系、堇青石は暗緑色部、ビナイト化しており透明感はない、黒光りが黒雲母)、7：ボタギニー-堇青石柘榴石黒雲母花崗斑岩 (S、チタン鉄鉱系)、8：角閃石黒雲母花崗岩 (S、磁鉄鉱系、しかし肉眼的にはSタイプに見えない)、9：ペイリトン角閃石黒雲母花崗閃緑岩 (I、チタン鉄鉱系)、10：ウオーターガムス花崗岩 (A、チタン鉄鉱系) スケールは1cm。

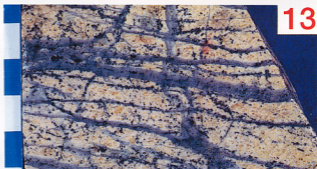
## ラクラン褶曲帯：ポーフリー型銅・金鉱床



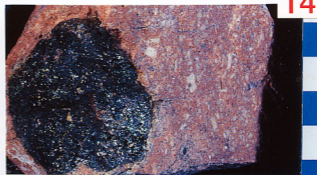
11



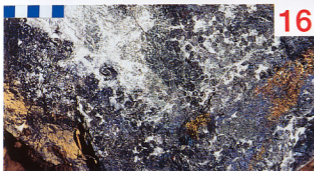
12



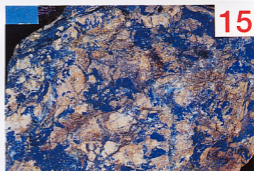
13



14



16



15

ラクラン褶曲帯のポーフリー型銅・金鉱床はいずれも1990年代中頃に開山した、ノース・パークス鉱山(グーソンブラ鉱床)5点(口絵11-15)ほか、11:ノース・パークス鉱山ピット(1994年8月開山、1996年2月撮影)、12:ボーリングコアに見る変質火山岩中の網状銅鉱石、高密度に注目、13:高品位銅鉱石(Cu2.65%, Au0.7g/t)、石英脈に斑銅鉱(Cu<sub>5</sub>FeS<sub>4</sub>)が散点、一般のポーフリー型鉱床に多産する黄銅鉱と違う点に注目、14:あたかも液体不混和で生じた様な外観を示す円盤状斑銅鉱濃集部、15:地表部で藍銅鉱(Cu<sub>3</sub>(CO<sub>3</sub>)<sub>2</sub>(OH)<sub>2</sub>)を含む酸化銅鉱石、16:ブラウン・クリーク鉱山、斑銅鉱-黄銅鉱-硫化鉄鉱物を含む珪灰石-柘榴石-透輝石スカルン銅鉱石、スケールの一目盛は1cm、